

乳幼児期のことばの発達について

沖縄中部療育医療センター
言語聴覚士 大城忍

今日の内容

- 1、ことばの前に
- 2、ことばを育むために
- 3、発音について

1、ことばの前に

ことばを話す前の準備

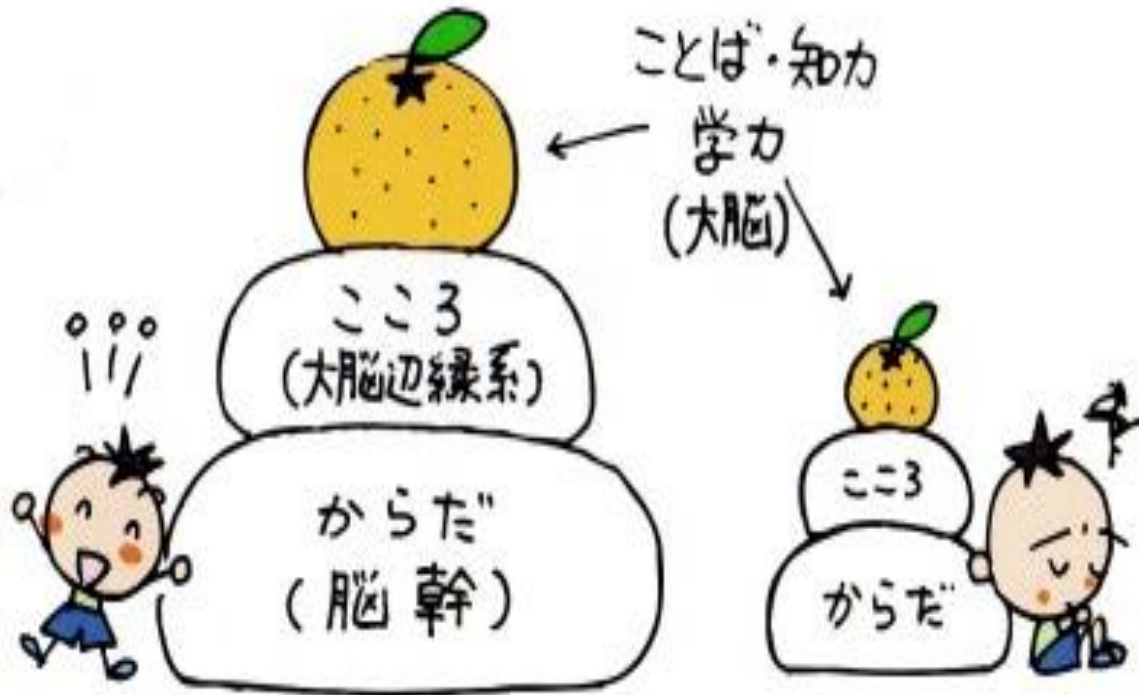
◆ 呼吸と産声：

肺に空気をいっぱい吸い込んで吐き出すときに出す第一声、それが産声です。自力で呼吸をし、泣いて、声を出すことがやがて「ことばでお話する」力につながっていきます。

◆ 食べる、物をなめる：

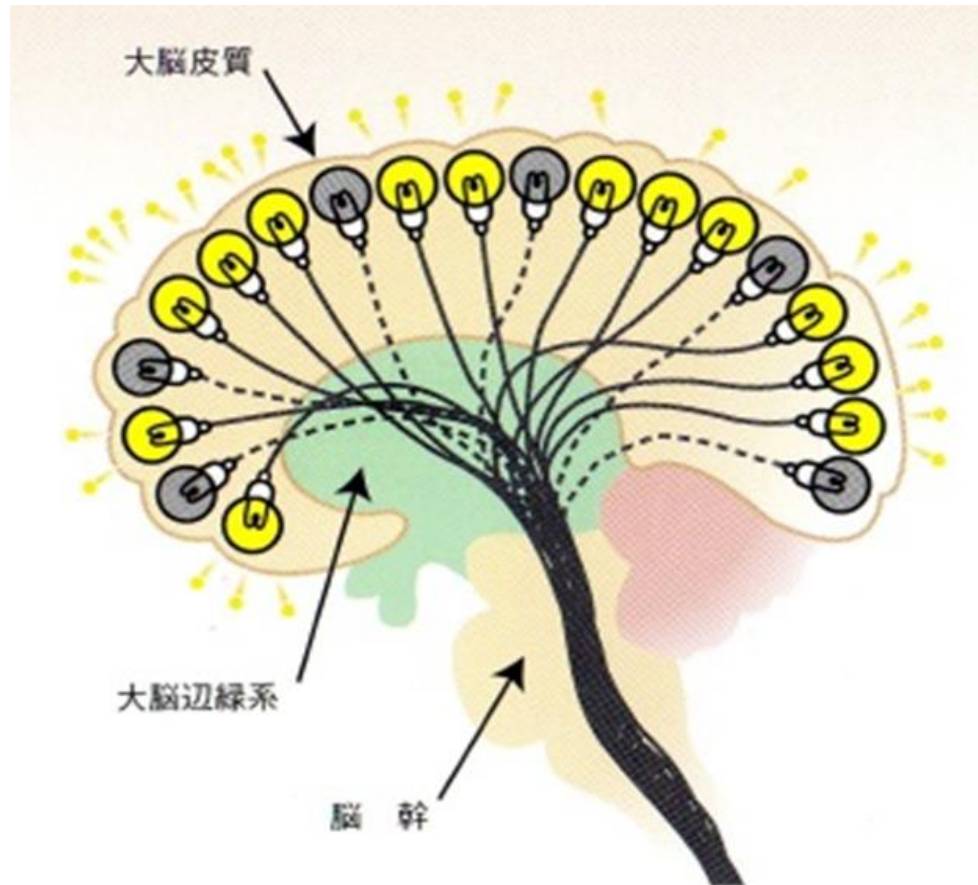
離乳食を食べたり、おもちゃをなめるのは、舌や唇を動かして発音するための準備運動でもあります。

ことばと脳のはたらき



引用:ことばが伸びるじょうずな子育て

配線工事と発達



引用:ことばが伸びるじょうずな子育て

脳の配線工事を進めるには？



引用：ことばが伸びるじょうずな子育て

2、ことばを育むために

「ことば」の3つの側面

①コミュニケーション意欲

大好きな人に自分の気持ちを伝えよう、知らせようとする気持ちです。

②言えることば(音声言語)

「りんご」というふうに声に出して言うことばで、喉や舌、唇を使って声を出し発音する能力が必要です。

③わかることば(内言、概念)

「りんご」について知っていること。赤くて、甘酸っぱくて食べるとおいしい、など。過去に食べたり、味わったり見たりした経験を脳の記憶の貯蔵庫に貯めているのです。

※3つの中で一番大事にしたいのは「伝えたい気持ち」です。

「気持ちを分け合う」

- ◆ 気持ちを分け合うこと、分かり合うことは、赤ちゃんが「泣いて声を出せば大人がやってきて気持ちよくしてくれるんだ」という経験をたくさん積むことから始まります。この一手間が先々の「ことば」につながっているのです。

気持ちを分け合うには

◆ 子どもをよく見る

<見る+見る+見る+見る+見る……………>



<いつも見ている、たくさん見ている>



<どういうときにどういう行動をするかがわかる>



<行動から子どもの気持ちが推測できる>



<子どもの気持ちがわかる><声にならないことばがわかる>

SOULー子どもと関わる態度の基本

- ◆「S」・・・沈黙(Silence)
子どもの行動や目の動きを静かに見守ります。
- ◆「O」・・・観察(Observation)
よく見ること、です。子どもをしっかり観察しましょう。
- ◆「U」・・・理解(Understanding)
観察したことがらを、これまでのその子どもに関する情報と照らし合わせて、理解します。
- ◆「L」・・・聞くこと(Listening)
今、その子が言っていることも、今まさに言わんとしていることも、まだ全然言えていないことも、全部聞こうとするような聞き方をしましょう。

働きかけの方法

- ◆ 子どもがしていることをまねする(ミラリング)
- ◆ 子どもの出す声や音をまねる(モニタリング)
- ◆ 大人が自分のしていることを話す(セルフ・トーク)
- ◆ 子どもがしていること、言いたいこと、気持ちを言う
(パラレル・トーク)
- ◆ 子どもが間違えたことばをさりげなく直して返す
(リフレクション)
- ◆ ことばの内容を広げて返す(エクспанション)
- ◆ ゆっくり、はっきり、繰り返して話してあげる

- 動画

3、発音について

聴覚と発音の発達に応じたことばかけ

◆ 子どもの聞こえ方は未分化

おとな 「つめ」

子ども 「ちゆめ」

おとな 「『ちゆめ』じゃないの。『つ・め』」

こども 「ちゆ・め」

おとな 「『ちゆ』じゃないの！『つ』」

こども 「ちゆ！」

おとな 「何度言ってもわかんないんだから！耳が悪いんじゃないの！」

聴覚と発音の発達に応じたことばかけ

- ◆ 1つずつの音は言えるのに、ことばとしてつながらない「て」も「れ」も「び」もいえるけど「テレビ」と続けて言えない。これは、音節分解能力や聴覚弁別能力の未熟に由来するものです。その能力が備わるまでは、発音を問題にするより、ことばの数を増やすとか、経験を豊かにさせるとか、伝えたい気持ちを育てるといった、より基礎的なことを十分に行うことが大切です。

発音について

◆「あ・い・う・え・お」母音の分化

◆「ぱ・ぴ・ぷ・ぺ・ぽ」

「ま・み・む・め・も」

「ば・び・ぶ・べ・ぼ」

◆「た・て・と」「だ・で・ど」

◆「か・き・く・け・こ」 3歳前後

◆「さ・し・す・せ・そ」

「ら・り・る・れ・ろ」 5歳半過ぎ

※子どもの発音が明瞭になってくるのは4～5歳で、字が読めるようになるとなおはっきりします。

発音を中心に見たことばかけのポイント

- ◆ 発音ばかりにとらわれないで、表情や身振りなどで語っていることも含めて、その子の「言いたいことの中身」に注目してあげる。
- ◆ 発音を問題にするのは、発達レベル(知能レベル)で4～5歳過ぎてからでいい。
- ◆ 子ども側が言いやすく、聞き取りやすい音が多く含まれ、繰り返しが多い赤ちゃんことば、擬音語や擬態語などを上手に使う。

ご清聴ありがとうございました



参考引用文献

「ことばが伸びるじょうずな子育て」 中川信子 著

「心をことばにのせて」 中川信子 著